

学問分野別
P9

分野別

総合教育科目
P51

総合

文学部
P89

文

経済学部
P165

経

法学部
P201

法

教職
P263

教職

科目別履修要領

〔総合教育科目〕

- ・履修要領には、絶版となった参考書も記載してあります。これは、「その参考書が学習上有益である。」と担当者が判断したものです。可能な範囲で図書館などで捜して学習することをお勧めします。
- ・この科目別履修要領の講義要綱には、科目名の「新」・「改訂」が省略されている箇所があります。

【講義要綱】

哲学の歴史は学問の中では最も古く、多くの人間が解決に悩んだ問題の歴史です。哲学を学ぶには、「問題」の方に力点をおくやり方と、「歴史」の方に力点をおくやり方があります。どちらのやり方にもそれなりの利点がありますが、この講義では、前者のやり方をとり、哲学的問題とはどのような問題なのか、それを解決するためにはどのように考えればよいのかを、実際の問題を扱いながら考えて行きます。その際に強調したいことは、哲学は科学を中心とする現代の理論的営みと無関係なものではないということです。したがって、この講義が目指すのは、現代に生きる私たちがそれぞれの生活の中で生じる哲学的な問題に直面したとき、それを解決する方法や手懸りを提供することです。

【テキストの読み方】

テキストをどのように読み進めるかはきわめて重要です。そこでこのテキストの読み方について説明します。このテキストは論証の部分と、歴史的経緯や状況の説明の部分とからなっています。事件や事実を叙述する場合と、その背後のからくりや原因と結果の関係を推理する場合は大きく違っています。叙述の代表は小説や報道記事です。何が何時どのようなかという報告は、素直に読むだけで事の経緯がわかりますから、考えながら読む必要はありません。映画やテレビドラマが面白いのは筋の展開や心理描写にあり、それらは考えなくてもわかります。一方、論証の代表例は数学の定理の証明です。シャーロック・ホームズの推理も論証の一つです。数学の定理や名探偵の推理はしっかり考えないとわかりません。このテキストはこれら二つの異なる部分、つまり論証部分と叙述部分からなっていることに注意してください。

読んでいる部分が論証なのか、叙述なのかをまず確認してください。いずれの部分かによって読み方が違ってきます。論証部分はかつて数学のテキストを読んだときのことを思い出しながら、その時と同じように読んでみてください。時間をかけてゆっくり読まなければなりません。途中でわからなくなったら先に進むのではなく、前に戻らなければなりません。何度も前のページを見返すことが必要になります。一人で読む場合、このような読み方は一方的に辛抱強さを要求しますから、ついいい加減になったり、読み飛ばしたりしてしまいます。辛抱強く、何度も読み返す、わかるまで頑張る、といった根気が求められます。これに対して、叙述の部分は日本語さえわかれば大抵苦労なしに理解できます。正確に理解することを心掛ければまず心配は要りません。用語や人名が不明ならそれを調べる程度で済みます。でも、自分が正しく内容を理解したかどうかの確認は叙述の部分の方が厄介で、誤解しないよういつも注意しなければなりません。論証部分はわからない場合にはわからないという自覚が必ずあり、わからないことがはっきりわかります。

さらに、このテキストのもつ特徴は（問）があちこちにあることです。問は必ず解答して

ください。テキストの内容が理解できたかどうかの目安になります。テキストが二つの異なる部分をもつことを念頭に置きながら丁寧に読み進め、必ず「わかった」、「理解した」という確信がもてるまで何度も読み直してみてください。

【関連科目】

哲学から個々の学問が生まれていったことを考えれば、すべての科目が哲学に関連していると言っても過言ではありません。テキストの内容に対応する科目は何かを常に意識しながら学ぶと個々の研究を通じて哲学が理解できる筈です。

実際に関連の強い科目は論理学と科学哲学です。論理学は推理推論するために知っておかなければならない事柄ですし、科学哲学は哲学の個々の分野の一つです。

【参考文献】

野矢茂樹『哲学の謎』講談社現代新書、1996年

柴田正良『ロボットの心』講談社現代新書、2001年

戸田山和久『知識の哲学』産業図書、2002年

西脇与作編『入門科学哲学』慶應義塾大学出版会、2013年

【レポート作成上の注意点】

特に注意してほしいことは、教科書や参考書に書かれている事柄をまとめるだけのレポートにならないようにすることです。もちろん、教科書や参考書で理解したことを前提としなければなりません。その上で、あなた自身はどう考えるのかということを中心に書いてください。他方、教科書や参考書から学んだことをすべて無視して、自分の考えだけを書くという、逆の誤りにおちいることも避けてください。また、自分はこう考えると述べるだけでは、レポートにはなりません。必ず、なぜそう考えるのかという理由や根拠を挙げてください。レポートの書き方については、補助教材『学習のすすめ』を参考にしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

論理学 (A)

(A 015-7903、A 7950)〔4単位〕

【講義要綱】

論理学の研究はアリストテレス以来長い歴史をもっています。私たちが何かを推理するときには不可欠の規則が論理規則と呼ばれ、それがないと考えることさえ覚束ない基本的な規則と考えられています。それを研究するのが論理学で、19世紀末のフレーゲの研究によって論理学はそれまでにない新たな発展をすることになります。数学的な思考と記号の使い方が論理学に取り入れられ、数学やコンピュータ科学と結びつきながら、様々な分野で応用され、基礎研究には欠かせない役割を演じています。

この講義では論理的な推論や真偽概念について基本的な事柄を学ぶことを目的にしています。それによって自分が論理的に考えることができるようになるだけでなく、他人の考えが正しいかどうかもしっかり判定できるようになれるはずです。

【テキストの読み方】

文学部の他のテキストと違って記号や数式、論理式がたくさん登場します。自然な言語ではなく、記号言語を使って文や命題を論理式に書き直し、推論が正しいかどうか調べることが主要な内容ですから、それをしっかり肝に命じて読み進めてください。丁寧に説明されていますから、普通に読み進めれば、テキスト以外の参考文献を参照しなくても完全に理解できます。根気強く読めば、このテキスト一冊だけで論理学の基本は理解できるのです。

【関連科目】

論理学が生まれた経緯や歴史から哲学が強い関連をもった科目です。推論することが主要な研究方法である哲学では論理的な推論が大切な道具になっていますから、論理学の知識は哲学の問題を扱う上で必要なのです。また、数学的な形式をもった内容ですから、数学基礎論、計算理論、コンピュータ言語等は論理学と密接に結びついています。さらに、言語学との関連も20世紀後半には強くなり、統語論、意味論等で重要な役割を果たしています。

【参考文献】

論理学のテキストはたくさんありますが、テキストの読み方で書いたようにこのテキスト以外のテキストをまずは忘れてこのテキストだけに集中してみてください。どれも似た内容なら一冊だけ暗記するほどに読むのが一番です。

【レポート作成上の注意】

他の文献を参照する必要はありませんから、テキストの内容だけを十分に使ってレポートを作成してください。文献を検索し、巧みにそれを使うのではなく、テキストの内容を正しく理解し、それだけを使って問題を解くことに専念してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

文学

(A 012-7601、A 7610)〔4単位〕

●中国文学関係

【講義要綱】

中国の古典文学は、どのジャンルにおいても、いわゆる西欧の文学 (literature) の概念とは異なる独自の在り方、発展・変化の過程を有しています。

そうした状況を、中国の文化・歴史的な背景や中国語の特徴と関連づけて考え、また他国・

他地域の文学と比較してとらえることは、自らの「文学観」を相対化し、中国文学に対して多角的で深い視座を持つために非常に重要であると考えられます。

このような視座を持つことは、文学に限らず凡そ人文学すべての分野において、必須であると思われます。本講義を通じて、そのような視座を養ってもらいたいと希望します。

【テキストの読み方】

下記参考文献の①、②、③を読んで、中国文学の特徴を特に各ジャンルごとに把握すること。

さらに、④を読んでそれぞれの特徴や各作品を文学史の観点から整理し、また前後の時代の特徴と比較すること。

⑤、⑥は、レポートに取りあげる具体的な作品を決定するために使用すること。

また、各作品についてさらに深く考察し、先行研究を調査するために、⑦を利用すること。

【履修上の注意】

まずは参考文献を読んで、中国文学の（他の国・地域の文学と比較して顕著な）特徴について、特に文学の各ジャンルごとの観点からよく理解すること。

次に、自分が選択した作品にそうした特徴がどのように表れているのかについて、注意深く分析し、先行研究も踏まえつつ論じること。

【参考文献】

- ① 吉川幸次郎『中国文学入門』講談社学術文庫、1976年
- ② 興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』世界思想社、1991年
- ③ 前野直彬『中国文学序説』東京大学出版会、1982年
- ④ 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会、1975年
- ⑤ 八木章好『中国古典文学二十講一概説と作品選読』白帝社、2006年
- ⑥ 『中国の古典名著・総解説（改訂新版）』自由国民社、1998年
- ⑦ 『中国古典文学案内』日外アソシエーツ、2004年

【レポート作成上の注意点】

指定の字数内で、はっきりと読みやすく書くよう心がけること。引用文は自分の文章と区別できるようにし、出典と引用箇所を明記すること。また、レポート本文中で参考文献を引用したり使用する場合は、参考文献の書誌情報に加え、必ずそのページ数も明記すること。

●文学（日本文学関係）

【講義要綱】

近代の文学作品の多くは、同時代の社会や文化を直接的に反映している。しかしそれは、単に文学作品が社会や文化を映し出しているということだけを意味しない。むしろ文学作品は、社会や文化のありようをそれぞれの視点から描き、発表されることによって、それ自体

が新たな時代精神や社会・文化を創り出していく存在でもある。

このように時代や社会・文化と不可分の関係にある文学作品のありようをとらえ直すためにも、作品と史実との関わりの具体的な検証が求められる。

【テキストの読み方】

テキストの対象範囲は限定的であるため、参考文献などによって視野を広げることが要求される。

【履修上の注意】

近代日本文学史の基本的な知識を得ておくことが望ましい。

【参考文献】

対象として取り上げる作品に即して、それぞれの作家論・作品論を参照すること。

【レポート作成上の注意点】

「歴史的事実」は、基本的に、歴史年表などに記載されているような一般的な史実であることが望ましい。ただし、たとえば森鷗外の「堺事件」や島崎藤村「夜明け前」のように過去の史実を題材としているものでもよい。

また、同一の歴史的事実を扱った複数の作品を比較するという方法も考えられる。

対象となる歴史的事実の概要を理解した上で、それがどのような立場からどのように作品化されているか、またそのありようが、作品の書かれた同時代においてどのような意味をもつのか、といった点について具体的に検証し、自分自身の視点から論ずることが必要である。

●フランス文学関係

【講義要綱】

フランス文学は、特に近現代において、小説、詩、演劇、批評、思想といった文学のあらゆるジャンルで、人類の芸術の歴史から見ても突出した創造を達成しました。それは人間の感性、世界観、思想をおおきく広げ、深化させました。皆さんは今回の学習を通して、いくつかの作品を読むことにより、その一端に触れることとなります。学習に何よりも大切なのは、まず自分自身の感覚・知性を全開にし、読書をひとつの「経験」にまで深めることです。そして、もしその作品に興味を持ったら、作者の生涯、時代背景、あるいは文体などについて文献を探索し、さらに作品の理解を広げるようにしてください。

さて洋の東西を問わず、愛は文学の永遠のテーマです。フランス文学はとりわけ愛を表現した傑作が多く、詩、小説、演劇、エッセーなどあらゆるジャンルで、恋愛という主題がさまざまに変奏されてきました。語られるのは幸福な愛だけではなく、道ならぬ恋、破滅的な恋、絶望的な恋、不実な誘惑などです。『マノン・レスコー』、『谷間の百合』、『赤と黒』、『ボヴァリー夫人』、『スワン家のほうへ』、『愛人』など、恋愛小説の傑作はたくさんあります。愛の物語がどのように語られてきたのか、考えてみてください。

【テキストの読み方】

取り上げた作品をレポートの課題にそくして、ていねいに読んでください。

【履修上の注意】

特になし。

【関連科目】

テキスト『十九世紀のフランス文学』、『二十世紀のフランス文学』、『フランス文学概説』の学習も役立ちます。

【参考文献】

上村くに子・西川祐子編『フランス文学／男と女と』勁草書房、1991年
 小倉孝誠『〈女らしさ〉の文化史』中公文庫、2006年
 小倉孝誠『愛の情景——出会いから別れまでを読み解く』中央公論新社、2011年
 小倉孝誠『恋するフランス文学』慶應義塾大学出版会、2012年
 工藤庸子『フランス恋愛小説論』岩波新書、1998年
 アラン・コルバン他『世界で一番美しい愛の歴史』藤原書店、2004年
 東浦弘樹『フランス恋愛文学をたのしむ』世界思想社、2012年

【レポート作成上の注意点】

レポートを作成する際は、参照した文献にあった要素を単にまとめるのではなく、それらの要素をいったん消化したうえで、自分自身であらためて作品についてよく考え、それを記述するよう心がけてください。参考文献からの引用のモザイクにならないよう注意してください。あくまで「自分なり」の視点で論じることが重要です。

●演劇関係・ドイツ文学関係**【講義要綱】**

ドイツ語圏の文学は、哲学や音楽、また自然科学とも複雑に関連し合って、大きな表現の世界を作り上げてきました。また、ヨーロッパの中央部に位置しながら、長らく統一国家が形成されなかったことも、ドイツ語圏の文化をより一層複雑なものとしています。多様性の中の総合性、変転の中の普遍性を見つめる視線をもって、ドイツ語圏の文学に取り組んでみていただきたいと思います。

【履修上の注意】

テキスト『近代ドイツ演劇』や『近代ドイツ小説』も通読しておくことをおすすめします。

【関連科目】

文学研究は、視点の置き方次第で、あらゆる学問領域に関連付けることが可能です。問題意識を大胆に広げてみて下さい。

【参考文献】

手塚富雄・神品芳夫『ドイツ文学案内』岩波文庫、1993年
柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房、2003年
池内紀『ほくのドイツ文学講義』岩波新書、1996年

【レポート作成上の注意点】

自分の書きたいテーマが何であるのか、つねに鮮明に意識しつつ、全体の構成を見据えながらレポートを作成してください（実際に、論文・レポートの内容の見取り図を書いてみるとよろしいでしょう）。自分の研究分野にどのような先行研究があるのかも可能な限り調べて、論述の冒頭において簡潔に言及するようにしてください。参考文献に記されている「見解」と、自分のそれとが混同しないように、つねに心理的な「距離」をとりつつ文献に接してください。

●英米文学関係

【講義要綱】

文学作品には、それが書かれた時代と社会の姿が否応なく反映される。作者がそれらをいかに理解し自分自身の問題とした上で、作品としてどのように再構成・表現したかに注目して欲しい。必ずレポート課題で指定したテーマを中心に据えること。自分の興味に応じて時代、作品を選ぶことになるが、この段階でよく調べ考え抜くことが良いレポートを書く秘訣である。読んで面白かった作品を選び、その面白さ、自分の興味を喚起した点について論理的に考察すること。それにあたっては、参考文献を渉猟し、作品とその時代、そして作者への理解を深めることも重要である。

【参考文献】

加藤憲市ほか訳『コンプトン英国史・英文学史』大修館書店、1996年（定評ある百科事典から関連項目を訳出したもの。文学史を大づかみに理解する上で役に立つ。）

中村邦生ほか編著『たのしく読めるイギリス文学—作品ガイド150』ミネルヴァ書房、1994年（有名作品のあらすじ、作者、典型的な読み方などを要領よくまとめている。作品選びに便利。）

【レポート作成上の注意点】

1. レポート冒頭で、作家名、作品名、翻訳を用いるなら訳者名、使った版の出版社名、出版年を明記すること。
2. レポートの内容・論旨を端的に示す独自のタイトルを付けること。
3. 末尾には完備した文献一覧をつけること。
4. 作品の「あらすじ」は不要。自分の論を展開する上で不可欠な場合のみ、必要に応じて部分的に導入すること。
5. 自分の考えと参考文献等から得た知識とは明確に区別し、後者を引用する場合はもちろん、咀嚼し要約などして用いる場合でも、それぞれの箇所で注を施し、出典を明記する

こと。

6. その他の点については、『塾生ガイド』掲載の「レポート作成上の注意」に紹介されているような手引き書を参考にすること。

【成績評価方法】

科目試験による。

歴史（日本史）

（市販書採用科目）（A 043-9591）〔2単位〕

【テキスト】

竹内誠・佐藤和彦・君島和彦・木村茂光編『教養の日本史〔第2版〕』東京大学出版会、1995年

【第1回】

【講義要綱】

大化改新とは蘇我本宗家滅亡事件という乙巳の変と改新詔をはじめとする様々な政治改革を指すが、その史的意義をめぐっては諸説ある。本レポートでは、①改新の要因、②改新の実態、③七世紀後半への展開を論点として、まとめて欲しい。

【参考文献】

熊谷公男『日本の歴史03 大王から天皇へ』講談社、2001年（講談社学術文庫で再刊）
吉川真司『シリーズ日本古代史③飛鳥の都』岩波新書、2011年

【第2回】

【講義要綱】

近世の日本は、世界とのつながりを完全に閉ざしたわけではない。江戸幕府は長崎でオランダ・中国と貿易を行い、対馬藩を介して朝鮮と、薩摩藩を介して琉球と、それぞれ国交を結ぶこととなった。幕府はまた、松前藩に対してアイヌとの交易の独占権を保障した。このように幾つかの窓口を通じて維持された近世日本の対外関係について、理解を深めることが課題である。

【参考文献】

荒野泰典編『日本の時代史14 江戸幕府と東アジア』吉川弘文館、2003年
ロナルド・トビ『全集日本の歴史9「鎖国」という外交』小学館、2008年

【成績評価方法】

科目試験による。

歴史（東洋史）

（A 005-7101、A 7108）〔2単位〕

【講義要綱】

中国を中心としたアジア地域および中東・イスラーム世界の歴史について、概論的な知識を習得する。その上で、東洋史研究において特に重要なテーマに関して、課題・参考図書の特読、関連文献の調査・研究によってさらに理解を深めて行くことを目標とする。

【参考文献】

森安孝夫『シルクロードと唐帝国』〈興亡の世界史05〉講談社、2007年

石見清裕『唐代の国際関係』〈世界史リブレット97〉山川出版社、2009年

【レポート作成上の注意点】

課題・参考文献の文章を引用、または典拠として利用した場合には、必ずその頁数を註として明記してください。なお、註はレポートの最後にまとめて示すこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

歴史（西洋史）

（A 003-7102）〔2単位〕

【講義要綱】

この科目は、高等学校「世界史」の西洋史部分と、大学で学ぶ学問的に高度な西洋史との橋渡しをすることを目的としています。従ってテキストは、「世界史」よりは多少詳しく、かつ学問的にも多少高度に書かれています。入学後、他の難解な科目を履修する前に、この科目で歴史の勉強の基礎を作ってください。

【テキストの読み方】

レポート課題に取り組む前に、テキストを一読して西洋史の全体的な枠組みを把握し、同時に西洋史的な感覚をやしなってください。レポートについては課題書1冊のみを精読し、今回の課題について勉強してください。その後再度、科目試験にむけてテキストを入念に読み、履修者各自がテキストからトピックを取り上げて、トピックそれぞれについて各自なりに知識を整理してください。テキストを用いたトピック別の知識の整理が、科目試験の対策勉強になります。なお、科目試験対策としては、それぞれのトピックの骨組みとなる主要な事柄（事項、年代、人物）のみを覚えるようにし、細かい事柄は主要な事柄を理解するためにのみ必要と割り切ってください。科目試験の採点者は答案の細部にはこだわりません。

【履修上の注意】

この科目は、入学後早い段階で履修されることを想定しています。だから、事前ではなく同時に、西洋の文学史、近代思想史、政治学、経済原論などを履修すれば、この科目の理解

に役立ちますし、科目間の相乗効果も期待できます。

【関連科目】

「西洋史概説Ⅰ（古代・中世）」「西洋史概説Ⅱ（近代・現代）」「西洋史特殊Ⅰ—古代オリエンツ史—」「西洋史特殊Ⅲ—近代イギリス国家の成立（中世から近世へ）—」

【参考文献】

西洋史全般については、テキスト巻末に詳しい参考文献をあげておきましたので、それを見て下さい。レポート作成のためには、レポートの課題書を入念に読んで下さい。レポートについては、課題書以外にさらに他の参考書を読む必要はありません。

【レポート作成上の注意点】

今回の課題書を丁寧に読んで下さい。薄い本ですから、入念に読み、内容をよく咀嚼し、履修者各自の力で整理し、自分の言葉でレポートを書くように心がけて下さい。課題書の文章のつぎはぎ細工では歴史の勉強になりません。

なお論述に際しては、いきなり書き始めるのではなく、レポート全体の構成をよく考えて下書きを作り、文章を推敲した上で清書して下さい。添削担当者が、日本語の添削ではなく、論述内容の添削に集中できるようにして下さい。多少のミスは別としても、日本語を添削しなければならないようなレポートは、「添削不能レポート」として返却します。

【成績評価方法】

科目試験による。

法学（憲法を含む）

（A 021-8402）〔4単位〕

【講義要綱】

今日私たちの日々の生活は、「法」との接点なしに成り立つものではない。そこで本講義は、今後「法」との長い関わりをもつであろう法律学を専攻する者にとっても、また今回以外に「法」に係わる学習の機会を持ち得ないかもしれない者にとっても、現代社会を生きていくなかで、「法」をめぐる、これだけは知っていて欲しいと思われる基礎的な事柄への知見を得、理解を深めるために開講される。学習に当たっては、まずテキストを通読すること、つまりテキストの冒頭より最終頁までを必ず根気よく読み通してみることが肝要である。そして、次のステップとして、テキスト通読中十分理解できなかった箇所や疑問の箇所に重点を置きつつ、できれば複数の参考書を参照して、さらに学習を進めるべきであろう。レポート課題を横目で眺めながら、ただただ課題提出のみに的をしぼった学習など、本科目を真実自分のものにするためには、何ら意味無きことであると承知されたい。いささかの時間を要するかも知れないが、体系的な理解こそ、結果的には学習進捗のもっとも早道と思料される。なお、参考書については特に指摘しない。ちなみに「法学」に関しては、多くの労作が世に問われ

ており、図書館・書店に出向いて、自らの目で確かめ選択すること。また学習に際しては、できる限り当該年度の「六法」を入手し、それを座右に置き、必要に応じて丹念に条文内容を確認することは、「法学」履修の基本姿勢である。

【参考文献】

霞信彦『法学講義ノート〔第4版〕』慶應義塾大学出版会、2010年

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考書の丸写しにならないように留意することが必要である。併せてそれら参照文献を換骨奪胎してレポートを作成することも、評価の対象とならない。参照文献については、もれなく書名・著者・刊行年・出版社名をレポートの最後に明記することが求められる。

【成績評価方法】

科目試験による。

政治学 (A)

(A 001-6403)〔4単位〕

【講義要綱】

選挙制度と政党政治の類型との関連を具体的事例を念頭に置きながら政治的にきちんと理解することを目指します。

【テキストの読み方】

複数の章にまたがるテーマです。テキスト全体を熟読することを忘れないようにしてください。

【参考文献】

中村勝範編『主要国政治システム概論〔改訂版〕』慶應義塾大学出版会、2005年

【レポート作成上の注意点】

安易に他の文献に頼らず、まず教科書を熟読しテーマに関連する基礎的事項の理解を深めてください。足りない場合は、上記の参考書を、さらに不足の場合は、それ以外のものを利用してください。なお、参考文献は必ず文末に明記すること。またいかなる文献を選択したかも評価の対象になります。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

現実の経済を理解し分析するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。概要は以下の通りである。

1. 総論：経済の本質、経済循環の構造
2. ミクロ経済学
消費者・生産者行動
市場均衡
経済厚生と国際経済
3. マクロ経済学
国民所得決定のしくみ
財政・金融政策の効果
景気変動と経済成長

【テキストの読み方】

図や式の意味をよく理解するようにして下さい。

【履修上の注意】

高校レベルの数学は理解しておくことが望ましい。

【参考文献】

塩澤修平『経済学・入門〔第3版〕』有斐閣、2013年

塩澤修平『基礎コース 経済学〔第2版〕』新世社、2011年

【レポート作成上の注意点】

仮定と論理的帰結の区別を明確にすること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

ギデンズ『社会学〔第5版〕』而立書房、2009年

※テキストは、最新版の使用が望ましいが、第4版(2004年)を用いて学習しても構いません。

【講義要綱】

テキスト『社会学』 第5版（第4版も可）は、全般的に広範囲のテーマに関する社会学的な思考を述べてあります。社会学は社会科学の一分野です。社会学の基本的特徴は、経済学、法学、経営学、政治学などの社会科学が、人間社会のさまざまな現象をいわば縦割にして研究対象としているのに対して、それらの現象の基底において横断的に存在する社会的行為、社会関係、社会集団、組織に関する問題を考察、分析するところにあります。

社会学的思考、分析は社会学において使用される概念および概念枠組の操作を通してなされるものですから、社会学的思考、分析を身につけるには、社会学の基礎概念をよく理解することが必要となります。テキストに出て来る基礎概念、キーワードに注意してテキストをよく読み、理解し、それらの術語を使って具体的問題を記述、説明できるようになることが大事です。

【テキストの読み方】

このテキストには、1～22のセクションがあります。関心のあるところから読んでも構いません。またそれらセクションの最後に、まとめ、考察を深めるための問い、読書案内がつけられています。これらはあくまでも理解を助けるための情報です。まとめを読んで済ませることのないようにしてください。必ず本文を読み、まとめ等の情報を適切に利用して、理解を深めてください。また末尾の用語解説も参考にして、注意深く読んでください。その上で、そこに紹介された概念やアイデアを利用して、様々な出来事を「社会学的」に見ることができるようになってください。

【履修上の注意】

社会学的なものの見方を身につけることが大事です。特に各セクションの視角をマスターしてください。レポートでは、論述という形式を習得しているかどうかが大変な評価基準になります。

【関連科目】

社会学史、都市社会学

【参考文献】

レポート作成にあたっては、あなたの関心に応じて文献を探し出すことが重要です。少なくとも5本以上の文献をテキストの他に探してください。

【レポート作成上の注意点】

- ①参照や引用には注をつけて、出典を明らかにすること。ネットからの情報はホームページ名とダウンロード日時を明らかにすること。
- ②レポートの章立てを行うこと（1、課題設定。2、その課題を選んだ理由。3、本論。4、今後に残された課題。5、参考文献や資料）。

【成績評価方法】

科目試験による。

統計学 (A)**(A 055-0901) [4単位]****【講義要綱】**

社会科学分野の研究において、自然科学分野の研究で用いられてきた統計的分析が不可欠となってきました。そのため、社会科学における基礎学問としての「統計学」の重要性が高まってきています。

統計学では、①統計的記述（実際のデータの特徴をどのように捉えるか）、②統計的推測（標本から母集団の特徴をどのように推定するか）、③統計的検定（理論的主張をどのように検定するか）、④相関・回帰分析（複数の変数の間の相関・因果関係についての分析）を学ぶことにより統計的分析の基礎を身につけます。

【テキストの読み方】

各章の最初に示されているその章の解説を読み、まずは細かいところは気にせずその章を一通り読むことによって、概要をつかんでください。そして、次に例題を手掛かりにしながらコツコツと読み進めてください。その際には例題の解答の再現を試みるとよいでしょう。

例題のデータはその量を少なくしてありますが、それでも分析によっては計算量が多くなってしまう場合があります。その際にはエクセルを積極的に活用してください。各章末にエクセルの利用に関する解説が示されています。例題を理解していくことによってレポートに取り組む準備が整うことになるでしょう。

そして、章末の練習問題に取り組んでください。それらはこの科目の過去の試験問題あるいはそのアレンジがほとんどですが、いずれも現実社会のデータに関するものです。現実のデータを用いて統計分析を考えることによって応用力が身につくこととなります。試験では、データを用いた計算とそれに関する統計学的考え方の理解が問われますので、練習問題を理解することによって試験に向かう準備が整うことになるでしょう。

【履修上の注意】

この科目を履修する前に事前に履修すべき科目はありません。

【参考文献】

（統計学入門の代表的なテキスト）

蓑谷千風彦『統計学入門』東京図書、2004年

（統計学の歴史的背景や応用などをわかりやすく説明した副読本）

蓑谷千風彦『これからはじめる統計学』東京図書、2009年

（新書：気軽に読めるもの）

C. R. ラオ（藤越康祝・柳井晴夫・田栗正章訳）『統計学とは何か—偶然を生かす』ちくま学芸文庫、2010年

高橋洋一『統計・確率思考で世の中のカラクリが分かる』光文社、2011年

（表計算ソフトを使っての統計学の学習向け）

菊地進／鈴木みゆき／小西純／岩崎俊夫著『経済系のための情報処理』実教出版、2010年

菅民郎『Excel で学ぶ統計解析入門』オーム社、2013年

【レポート作成上の注意点】

統計学は計算結果や図表も含めてレポートを作成する科目であるため、指定箇所を除き、特に分量に制約を設けません。そして、レポート作成にあたっては、答えを求めるまでの経過もきちんと示してください。経過が示されていない場合、添削・採点の対象となりません。また、考察や説明が求められている場合、その設問も必ず解答してください。計算が出来ただけでは統計学が理解出来たとは言えません。計算途中で必要となるワークシートおよび図についてはエクセルで作成したものを印刷し、それを貼りつけても構いません。

また、統計学のレポートではテキストで取り上げられるデータ分析の実践を通じての復習に重点が置かれるため、論述形式のレポートにあるような参考文献の使用は必要ありません。

【成績評価方法】

科目試験による。

当該科目試験における出題範囲は、テキスト全体から発展項目を除いた部分とします。

数学（基礎）

（A 041-0001）〔2 単位〕

【講義要綱】

●第1章 集合（集合、写像）、第2章 数列（数列、数列の極限、級数）、第3章 関数（数の極限と連続、指数関数・対数関数、三角関数）

数学の多くの分野は集合を基礎にしてその理論が構築されている。ここで学ぶ写像の概念は数列、関数へと特殊化されて、社会科学のさまざまなところで応用されている。広く諸科学を専攻するための「基礎の基礎」として、ぜひ学習されるようお勧めしたい。

数列や関数の極限の考え方は、物事の漸近的な様子を記述する上で重要である。「限りなく近づく」（収束）、あるいは「限りなく大きく（小さく）なる」（発散）というイメージに親しむことを目指す。

さらに、特によく用いられるいくつかの重要な関数について学ぶ。それぞれの定義と特徴について学習し、取り扱いに慣れることが大切である。

●第4章 個数の数え上げ（直積の要素の個数、和集合と共通部分の要素の個数、順列と組合せ）、第5章 確率（標本空間と確率空間、事象と確率、確率の計算と順列・組合せ、

条件付き確率、確率変数と期待値)、第6章 事象と認識(順序、束、分割、集合体、可測空間と可測写像、エントロピー)

初めに個数の数え上げの手法を学ぶ。数え上げる対象の代表的なものとして順列と組合せがあるが、ここでは数え落しや、数え過ぎのないよう規則的に数え上げる態度を養う。

次に確率論の初歩を学ぶ。社会現象に不確実性を伴うことはごく普通のことであり、その不確実性は確率を使い記述される。確率の概念を数学的に表現するためのいくつかの概念を導入し、これらとすでに学習した数え上げ手法に基づき確率の計算も行う。さらに、確率論で最も重要な概念である、確率変数とその期待値について学習する。

最後に、事象とその認識の問題をあつかう。事象を認識するときのその粗さや細かさを数学的に表現する方法を学習する。このときすでに学んでいる集合論の知識がいたるところで使われ、また、確率論とも密接に関係してくる。さらに、エントロピーの概念も紹介される。

【テキストの読み方】

教科書を通読した後に、必ず練習問題を解くこと。また、要点をまとめた自分なりのノートを作成するとよい。

【参考文献】

高等学校の教科書(数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Ⅲ、数学C)
志賀浩二『集合への30講』朝倉書店、1988年

【レポート作成上の注意】

問題文からどのように着眼し、どのような思考をして結論に至ったのか、添削者が読み取れるように丁寧に記載すること。答えを求めるまでの過程が明示されていない場合、添削、採点の対象となりません。

【成績評価方法】

科目試験による。

数学(微分・積分)

(A 024-8501、A 8542 b)〔2単位〕

【講義要綱】

- 第1章 微分法(関数の極限、導関数、Taylorの定理、関数の性質、微分法の応用)、
- 第2章 偏微分法(多変数関数の極限、偏導関数、極値問題、偏微分の応用)

例えば0時から x 時までの車の移動距離を $y=f(x)$ で表すと、 a 時から b 時までの車の平均速度はその間の移動距離 $f(b)-f(a)$ を時間 $b-a$ で割ったものになる。その間車の速度は一定ではなく、絶えず変化していると考えるのが自然であろう。では a 時での車の瞬間の速度はどうなるであろうか。 b が a に近ければ近いほどその間の平均速度は瞬間の速

度に近づくと考えられる。そこで b を a に限りなく近づけるといふ極限の概念がでてくる。 b を a に限りなく近づけたときの平均速度の極限 $f'(a)$ が a 時の瞬間速度である。車の移動の様子は速度 $f'(x)$ 加速度 $f''(x)$ によってある程度調べることができる。

1章ではいろいろな関数 $f(x)$ について $f'(x)$ の求め方、 $f'(x)$ と関数 $f(x)$ の増減、 $f''(x)$ と関数 $f(x)$ の凹凸との関係、関数の極値について学ぶ。また、関数を多項式関数で近似し、その誤差を調べる、Taylor の定理を学ぶ。

2変数の関数 $z=f(x, y)$ は空間の曲面を表していると考えることができる。

曲面 $z=f(x, y)$ が山を表していると想像してください。山の様子を知るにはどのような方法があるだろうか。例えば地図は等高線で山の様子を表している。同様にいろいろな高さ c の等高線 $f(x, y)=c$ を考えることにより曲面の様子を調べる。また山を縦方向に切断してその切断面を調べることによって山の様子を知ることができる。 $z=f(x, y)$ は $y=b$ とすると x だけの関数 $z=f(x, b)$ となるし、 $x=a$ とすると y だけの関数 $z=f(a, y)$ となる、1変数の関数は1章により詳しく調べることができるので、これらを利用して $z=f(x, y)$ の様子も調べることができる。

2章では2変数関数 $z=f(x, y)$ について $x=a$ または $y=b$ と固定したときの微分にあたる偏微分を学ぶ。また山の頂上にあたる極大値、山道を歩いたときの峠にあたるある条件のもとでの極大値などを学ぶ。

●第3章 不定積分（不定積分、置換積分法・部分積分法、有理関数・無理関数・三角関数の積分）、第4章 定積分（定積分、定積分の計算、定積分の定義の拡張）、第5章 定積分の応用（面積・体積、道のり・曲線の長さ）、第6章 重積分（2重積分、重積分の計算、体積・曲面積）

積分法は微分法の逆の演算で微分法と表裏一体をなすものです。ここでは前半で学んだ微分、偏微分等の知識を踏まえて積分に関する基礎事項を学びます。

【テキストの読み方】

1章ではまずいろいろな関数 $f(x)$ について導関数 $f'(x)$ を求められるようにしてください。合成関数の導関数の公式が使えるようになると、導関数を求めることができる関数がぐっと増えます。次に $f'(x)$ 、 $f''(x)$ を調べることにより $y=f(x)$ のグラフの概形を描けるようになるようにしてください。

2章ではまず偏導関数の計算を練習してください。偏導関数についても合成関数の偏導関数の公式は重要です。次に、2変数関数の極値、条件付き極値問題に進んでください。

【レポート作成上の注意点】

第1回

答えだけでなく、その結論に至る過程も丁寧に記述してください。

1. は関数のグラフについての問題です。
2. は高次の導関数の問題です。

3. は 2 変数関数の極値についての問題です。

4. は 2 変数関数の条件付き極値問題です。

テキストの該当する個所をよく読んで、理解してからレポートを作成してください。

第 2 回

最終的な「答」のみを記載したものは不可です。問題文からどのように着想し、どのような思考をして結論に至ったのかわかるように、ていねいに記述してください。

問題 2. 4) ではテキスト P38 の (4. 18) 式を、また問題 3. 3) では同 P39 の (4. 24) 式をそれぞれ用いて解答してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

数学（線形数学）

（A 058-1001）〔2 単位〕

【講義要綱】

● 「線型代数とは何か、なぜ学ぶか」

線型代数とは何かと聞かれれば、1 次式と 2 次式の数学と答えることができます。数学が考える対象として関数はより一般性をもっていますが、社会科学・心理学などを学ぶときには、様々な量の関係のモデルを、それらの量の 1 次式と 2 次式で構成するのが基本です。しかも、モデルは確率・統計を用いて、現実のデータに適合したものを採用しますが、その最適化のプロセスで線型代数が大いに役に立ちます。中学のときに学んだ連立 1 次方程式をさらに深めた内容を学ぶと聞くと、ばかげていると思うかもしれませんが、しかし、人類で量を記述する最も基本的な方法が線型代数で与えられるのです。

● 第 1 章 ベクトルとその幾何学

この章では、ベクトルの加法、減法、定数倍などの演算に加えて、内積を用いた幾何学とその応用について学びます。ベクトルの代数的側面と併せて対応する幾何学的イメージを習得できるとよいでしょう。この章を学ぶ前に、高校で学んだベクトルの内積について復習しましょう。

● 第 2 章 行列

m 個の変数を用いた n 個の 1 次式があるとします。これをまとめて表現するのに、行列を用います。この章では、行列の演算について詳しく学びます。

● 第 3 章 連立 1 次方程式

この章では、連立 1 次方程式の「掃き出し法」を学びます。ここで計算機アルゴリズムに触れることができます。この章の主眼は、連立 1 次方程式の具体的な解法にあります。その背後にある基本行列を用いる理論が線型代数の基本になります。

●第4章 行列式

行列式は、 n 個の変数を用いた n 個の 1 次式で表される連立 1 次方程式の解法を与えてくれます。この量が、行列の基本的な性質を記述してくれるのです。ここでも「掃き出し法」は重要な役割を演じます。

●第5章 線形部分空間

連立 1 次方程式が定める解空間を記述するのに必要な線形部分空間について学びます。ここでは、基底や次元といった根本的な概念の理解が重要です。ここでも再び「掃き出し法」は重要となります。

[注意] 第 1 章、第 2 章、第 3 章が第 1 回レポートの内容で、第 4 章、第 5 章が第 2 回レポートの内容です。

【テキストの読み方】

テキストにはたくさんの演習問題が出題されています。これを地道に解いていきながらテキストを読みましょう。

【履修上の注意】

高校 2 年生までの数学を学んだ人が対象です。

【関連科目】

「数学（微分・積分）」

【参考文献】

特になし。

【レポート作成上の注意点】

計算結果のみを記述するのでは、合格になりません。必要十分な情報は何かを考えながら、レポートを作成しましょう。用いた変形は必ず記述しましょう。特に行基本変形を用いる場合は、使った変形を明記して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

地学

(A 051-0601) [4 単位]

【講義要綱】

“地学”の学習目的として以下の 4 つがあげられる。

1. 地球システムを構成しているサブシステム（大気、水、岩石）の構成物質について理解する。
2. これらのサブシステム間の相互作用（物質循環等）について理解する。例えば、様々な

- 地学現象（火成作用、変成作用、鉱床作用等）、プレートテクトニクスについて理解する。
3. 自然—人間相互作用について理解する。例えば、地球環境問題、自然災害問題、資源問題について知り、それらの関係について学ぶ。
 4. 地球システム、これを構成する各サブシステムの進化（非可逆的時間変化と多様性）について学ぶ。

【テキストの読み方】

テキストをよく読み、理解した上で興味深い点を見出し、参考文献をいくつか読んで下さい。

【履修上の注意】

テキストをよく読み、基礎的事項をよく理解することが大事です。その上で自分の興味ある点について参考文献を読んで勉強をさらに進めて下さい。

【関連科目】

「化学」「物理」

【参考文献】

- 鹿園直建『地球惑星システム科学入門』東京大学出版会、2009年
 鹿園直建『地球システム環境化学』東京大学出版会、2010年
 鹿園直建『水資源の科学』オーム社、2012年

【レポート作成上の注意点】

まず教科書をよく読み理解に努める。次に関連深い参考書を2～3冊選び、理解を深める。その上で問題点をよく整理し、自分なりの考えをまとめるようにする。地学は総合的な学問なので、レポートも総合的な観点からまとめるように心がける。それと同時に、自分の興味のある点やポイントをおさえ、具体的に述べるようにする。

【成績評価方法】

科目試験による。

物理学

(A 059-1101)〔テキスト4単位（他に実験スクーリング2単位の修得が必要）計6単位〕

【講義要綱】

物理学はテキスト学習とスクーリングにおける実験からなる合計6単位の科目です。テキストと実験を通じ、現代物理学の基本的な知識と考え方を学びます。単にテキストの内容を理解するだけでなく、興味を持った問題に関し、自分で調べ、考えて理解できる能力を身に付けることを目指しています。このような能力は物理学にとどまらず、あらゆる分野で威

力を発揮するでしょう。

テキストは、20世紀の物理学を中心に、いくつかの分野を深く学ぶ内容となっています。前半では量子力学とミクロの世界について考えます。後半では宇宙の物理と相対性理論について学びます。理論だけではなく、具体的な物理現象の仕組み、そして、理論が正しいと考える根拠を明らかにしていきます。テキストの内容はスクーリングで行う実験の内容とも密接に関連しています。

スクーリングの実験は、1人か2人一組で行います。配布される実験テキストに手順の詳細な説明があるので、誰でも結果を得られます。実験ではその持つ意味を考え、理解することが重要です。実験結果を得て実験レポートを提出する際に、必ず教員と質疑応答を行い、実験内容の理解を確かめます。実験を通じて、物理学テキストでも強調した、自然科学における実証の持つ意味を実感できると思います。また、理論と現実とのつながりも実感できるでしょう。インフォーマルで充実感があり、楽しい経験だと思います。

通信教育課程の物理学には高校での物理学の履修は必要ありません。また、使う数学は中学程度です。ただ、これは簡単という意味ではありません。新しい概念を学ぶのは誰にとっても難しいものだからです。テキストでは、必要に応じて基礎的な内容を説明しています。テキストを理解することを目指して下さい。科目試験の問題もテキストの内容を理解すれば解けます。

物理学は様々な現象がなぜ起きるかを考える大変面白い学問だと思います。物理学を楽しんで欲しいです。

【参考文献】

特に指定しません。テキストを理解するとともに、自分で興味を持った本や記事を読んで考えることを勧めます。

【レポート作成上の注意点】

テキスト学習では3回のレポート提出が求められています。レポートは物理学テキストの内容を理解すれば解答できる課題です。解答は内容を消化して、自分の言葉でわかりやすく表現して下さい。

物理学では課題に的確に答えられれば字数は気にする必要はありません。数式や図は必要に応じて使って下さい。計算をする場合には、必ず途中過程を記して下さい。10の累乗の計算法の理解は、レポートとスクーリングの実験の両方で必要です。3回分のレポートをいきなりまとめて提出するのではなく、まず1回分を提出し、評価とコメントを見てから残りを提出することを勧めます。

【成績評価方法】

①レポートの評価、②実験スクーリングの評価、③科目試験の評価による総合評価が最終評価となります。

【講義要綱】

化学という学問は、さまざまな物質の成分や構造などを調べ、反応により別な物へ転換する方法を扱っています。例えば、空気の78%は窒素 N_2 ですが、これを高压化で水素 H_2 と反応させ、アンモニア NH_3 を合成する方法を、1907年にドイツのハーバーが開発しました (1918年度ノーベル化学賞受賞)。窒素分は植物の肥料として欠かせない成分であり、この発明のおかげで、世界の人口が急増していても、食糧難にならずに済んでいるといえます。その一方で、「化学物質」が環境を破壊する事態も発生しています。これらの問題にどう対処すべきか考える上で、化学結合や反応性を理解しておく必要があります。一般に化合物の構造は、元素記号と結合の線で表します。この講義の到達ゴールは、化学の基本的な考え方 (概念) および構造式の意味がわかるようになることです。

【テキストの読み方】

第1章は、高校あるいはそれ以前に習う化学の基礎をまとめています。化学に自信がある人は、第1章の演習問題から取り組んでください。それから各章を読み、演習問題もやってみてください。もし問題の意味や答えが分からないときは、テキストの関連部分を読み返してください。自分なりに精いっぱい問題を解いてから、巻末の解答例をみて答えを確認してください。レポート課題との対応は、[第1回] 1～3章、[第2回] 4～7章、[第3回] 8～10章です。

【参考文献】

特に指定しません。

【レポート作成上の注意点】

「参考文献」の記載は、レポート [第3回] 問題3についてだけ必要です。それ以外は、省略しても結構です。また、回答にあたっては、問題文中の「〇〇すること」、という指示にしたがってください。分量は制約しません (2000字に達しなくても、あるいはそれを少し超えても構いません)。説明問題への回答は、テキストでいかによく学習しているかを示す機会ですので、できるだけいねいに書いてください。ただし、自分なりに要点をまとめることが重要です。教科書や参考書などの丸写しはやめてください。計算問題に対しては、結果だけでなくそれを導出するための考え方や、途中の計算式も書いてください。

元素記号を書く場合、大文字と小文字は区別し、添え字の位置にも注意してください。たとえば、(正) H_2O や CH_4 を、(誤) h_2o や $CH4$ のように書いてはいけません。構造式を書く場合は、炭素の原子価が4 (結合の手が4本) であることに注意してください。

【成績評価方法】

①レポートの評価、②実験スクーリングの評価、③科目試験の評価による総合評価が最終評価。

生物学

(A 049-0501) [テキスト 4 単位 (他に実験スクーリング 2 単位の修得が必要) 計 6 単位]

【講義要綱】

近年、生命科学分野の発展はめざましいものがあります。医療や環境など、我々にとって身近な問題を考えるためにも、基礎固めとして生物学の考え方をしっかり学ぶ必要があります。この教科書は生物学の基礎からはじめ、生物学的諸問題をじっくり考えられるように作られています。テキストの内容をしっかりと読みこなしした上で、参考書を読めば、より深い理解が得られるでしょう。

【テキストの読み方】

生物学の各分野は非常に緊密に連携しているので、課題に関連する部分を読んだだけではしっかりした理解につながりません。全体に目を通した上で、関連する分野を繰り返し熟読することで理解が深まります。参考文献では基礎的な記述が省略されている場合があるので、必ずテキストの関連する内容を確認してからレポートを作成すること。

【履修上の注意】

この科目は実験スクーリングの履修が必要な科目です。スクーリング前にレポートに取り組んでみるか、少なくとも教科書に一通り目を通しておきましょう。

この科目のレポートは1回の提出あたり2000字以内が基準です。大幅に超過することがないよう気をつけること。参考文献やインターネット情報の「関連ありそうな部分」を抜き書きしてつないでも良いレポートにはなりません。課題で求めていることに対して直接的かつ簡潔な記載を心がけること。

科目試験は教科書の内容がしっかり理解できていることを重視します。十分な準備をして臨んでください。

【参考文献】

第1回：Neil A. Campbell, Jane B. Reece 著、小林興監訳『キャンベル生物学』丸善、2007年

第2回：山内一也『ウイルスと人間』岩波科学ライブラリー、岩波書店、2005年
河岡義裕、堀本研子『インフルエンザ パンデミック 新型ウイルスの謎に迫る』ブルーバックス、講談社、2009年

【レポート作成上の注意点】

第1回：正確な図と文章からなる完成度が高いレポートに仕上げる必要があります。作図は、下書き、清画、色付けにより行って下さい。また、文章は、短い文から構成することで、簡潔で論理性が際立つだけでなく、リズムカルなものとなります。図を書き写すだけでなく、文章と照らし合わせることにより、一つ一つのポイントを意識せざるを得なくなり、その結果、オリジナルなレポートへ昇華していくものと期待されます。本課題は、参考図書に簡潔な解説のもと数多く載っており、書き写しがちになることが予想されますが、自身で理解して自身の言葉で説明するという姿勢を意識することで、単なる書き写しとは異なったオリジナリティが生まれるはずで、参考図書を示しておきますが、これ以外に、自身で他の成書やネット等で幅広く知識を収集してみてください。よりアップデートした研究成果に出会えるかもしれません。

第2回：まず、テキスト（第1章、第3章、第4章）をよく読んで、内容を理解してください。さらに、ウイルスに関する参考文献を読んで、理解を深めてください。レポート課題の趣旨に沿って要点を整理し、論理的で説得力のあるレポートを作成してください。レポートの本文中で文献を引用する場合は、「〇〇は△△である^①。」というように、引用する文献に番号をつけ、レポートの最後に文献の詳細を記載してください。

第3回：まず、テキストをよく読み、理解することが大切です。その上で、自分の文章でまとめてください。参考文献などを引用する場合は必ず引用した部分が見えるようにし、出典を明示すること。

【成績評価方法】

①レポートの評価、②実験スクーリングの評価、③科目試験の評価による総合評価が最終評価。

英語 I

(A 045-0001)〔2単位〕

【講義要綱】

英文法の正確な知識を持つことは、読解においても作文においても会話においても大きな力となることは言うまでもありません。この科目では、文の構造・八品詞から始めて短い文章を文法的見地から精読し暗記することで、英文で発信された情報を正確に受信できる能力を涵養することを目的にしています。併せて、受講生諸君は多くの英文を読むことで、その知識を確かなものとして定着させてください。英語の学習には、なにより勤勉な学習態度が要求されます。テキストの「はしがき」「本書の構成」「今後の学習のために」に科目担当者の信念と方法が記されています。まずはそれを熟読してください。

【参考文献】

テキスト pp.237-38の「今後の学習のために」を参考にしてください。特に、参考書として掲げたうちの1～3を推薦します。

【レポート作成上の注意点】

単に解答のみを書くのではなく、指示に従ってできるだけ詳しく説明を加えること。

全てに解答していないレポートは採点しません。文字はていねいに書いてください。判読が困難なレポートは大幅に減点します。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語Ⅱ

(A 047-0101)〔2単位〕

【講義要綱】

●第Ⅰ部 文法・作文

本科目の目的は、英語を実際にコミュニケーションの道具として使っていく際に、どうしても身に付けておかなければならない英文法の基礎知識を学習することにある。

●第Ⅱ部 リスニング・スピーキング

本科目の目的は、第Ⅰ部で習得した英文法の基礎知識を、実際に、リスニングとスピーキングの中で応用する力を身に付けることにある。

【履修上の注意】

●第Ⅱ部 テキストの第Ⅰ部「文法・作文」をよく学習すること。

【参考文献】

辞書はできるだけ刊行後5年以内のものを使用すること。

【レポート作成上の注意点】

〔第1回〕〔第2回〕 問題文をしっかりと読んで、その通りに解答すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語Ⅲ

(A 046-0001)〔2単位〕

【講義要綱】

『英語Ⅲ』の主な目標は、時事的なトピックを扱う英字新聞や現代人の抱える諸問題に取

り組む著述家の作品に触れることによって、リーディングの能力を向上させることです。記事やストーリーを楽しみながら、知らず知らずのうちに様々な英語の言い回しを学び、ボキャブラリーを増やして、英文の読解力を養うことができます。

Part I は、受講者に多読の習慣をつけてもらうことを目的としました。新聞記事をテキストの一部に採用することによって、英字新聞に親しんでもらえればと思います。また科目試験では、問題作成時の大きなニュースを出題する予定です。テキスト外からの応用問題となるので注意してください。

フィクションの部では娯楽性に重点をおいて選択しました。英語Ⅲのテキスト本文僅か100ページ足らずを読んで、即英語ができるようになるわけではありません。文庫本を読むような感覚で、英語のペーパーバックが読めるようになって欲しいと思います。そのための導入になるようにと編集したつもりです。

Part II では、イギリス人作家1名、およびイングランド在住のアイランド人作家2名の作品を収録しています。最初の作品—ジョージ・オーウェル「象を撃つ」はルポルタージュで、歯切れのよい直截的な表現を特徴としています。次にウィリアム・トレヴァーの短編「中年の出会い」は、フラッシュバックの手法を用いながら、男女の邂逅による出来事を心理の裏に入って巧みに描写しています。そしてエドナ・オブライエンの小品「暗黒の時間のなかで」は、初めて大学都市ケンブリッジを息子と共に訪れた作者が、女性特有の感性でその印象を綴っています。

客観的な情景、作中人物の意識の推移、会話の部分などが融合していることがあります。テキストの解説を参照し、ストーリーの概略を把握した上で、作品の文脈に注意しながら読んでください。

なお科目試験では、参考文献からも出題する予定です。同文献・各章の「Practice F: Dialog」が試験範囲に含まれます。予め目を通して準備するようにしてください。

【履修上の注意】

この科目は、中学・高校時代のベーシックな英文法の輪郭を習得した学習者なら、誰でも履修できます。仮定法、関係代名詞、主語・動詞の倒置などに留意しながら、少しずつ読み進んでください。

センテンスが長いときには、意味のまとまりごとに、鉛筆で斜線を入れるなど、自分で工夫してみましょう。

【参考文献】 ※第I回～第IV回科目試験で、下記・各章の「Practice F: Dialog」が出題対象。

Wayne I. Phillips ほか著『アメリカの文化と社会』成美堂（文章構成の把握、語彙の増大に便利。録音テープ併用で自習できる。）

【レポート作成上の注意点】

第1回：Part I の説明問題は、答案作成者がテキストの内容をどのくらい理解しているかを見るためのものですから、単に要点だけを書き記すのではなく、採点者に対

して、自分はこれだけしっかり理解しているのだということを、はっきり伝えられるような、説得力のある答案作成を心掛けてください。しばしば非常に日本人的な、以心伝心を期待するような答案を見かけますが、国際語である英語を勉強している以上、そのような答案は不可です。

第2回：レポートでは、どの程度、テキストの英文を理解できているかについて試す問題が出されています。いずれも基礎的な知識を問う問題で、比較的容易に理解できるものばかりですが、作品全体を読んでいないと難しいかもしれません。和訳に関する質問では、名訳を期待しているわけではありません。語学的に正確な、日本語として分かりやすい文章を書くように心掛けてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語Ⅶ

(A 031-8901、W 8976)〔2単位〕

【講義要綱】

数十ページにおよぶ長い英語の文章を読んで、それを的確に理解できるようになることを目標としています。

【履修上の注意】

英文を読むためには、英文法の基本的な事項をひと通り習得しておくことが是非とも必要です。

【参考文献】

英文法が未習得の方には、参考書として『総合英語 Forest』（桐原書店）を推薦します。

【レポート作成上の注意点】

英文和訳の設問は翻訳の技術ではなく、英文の構造と内容の理解を試すためのものですので、その点に留意して訳文を作成するように心がけてください。また、字数制限のある設問は、内容の理解を試すとともに一定の字数内でまとめる能力を試すためのものですので、指定された字数内に収まるように工夫して解答を作成してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

ドイツ語第一部

(A 009-7303、A 7381)〔2単位〕

【講義要綱】

ドイツ語第一部では、発音および初歩的な文法事項を、平易な文章に即して学ぶ。

第1回レポートはテキスト1～7課、第2回レポートはテキスト8～15課を対象としているが、言うまでもなく学習内容は積み重ねであって、第2回は第1回の範囲の修得を前提としている。

【履修上の注意】

テキストを熟読し練習問題により習熟を図るのはもちろんのこと、市販の文法参考書・問題集の類も適宜併用されたい。また、とりわけ品詞分類や構文に留意しつつ独和辞典をひく習慣をつけることが肝要である。

【参考文献】

尾崎盛景・稲田拓『ドイツ語練習問題3000題』白水社

【成績評価方法】

科目試験による。

ドイツ語第二部

(A 017-8002、A 8082)〔2単位〕

【講義要綱】

●文法篇

文法の基礎を確実なものにするのが目的です。ご存じのとおりドイツ語には各種の変化が数多くあります。学習者の悩みの種ですが、それがドイツ語という言語であり、ドイツ語によるコミュニケーションに不可欠なものなのです。教科書、辞書をフルに活用して、基本を身につけるようにして下さい。

●読本篇

テキスト「ドイツ語第二部」の読本篇の「はじめに」に書かれていることを、よく守り学習して下さい。特に〔注〕の説明は大切で、しっかり理解し、熟読玩味すべきでしょう。〔注〕が〔本文〕、〔単語〕、〔文法〕、〔和訳〕の接点になっています。また、「文法篇」を何度も参照し、「どの箇所を見れば、何が書いてある」かが分かるほど、反復学習することが大切です。

【履修上の注意】

●読本篇

読本篇ではありますが、ただ単にドイツ語を日本語に翻訳することが課されるものではありません。ドイツ語の基本的事柄が、真に理解できているかどうか、が問題です。文法項目としては、接続法までの初級文法を終了していることが望まれます。また、冠飾句（冠詞類と、

現在分詞あるいは過去分詞を用いた長い名詞句)の使い方についての理解(テキスト「ドイツ語第二部」151ページの注11を参照のこと)が、基本的事項として求められます。

【成績評価方法】

科目試験による。

ドイツ語第三部

(A 056-0901)〔2単位〕

【講義要綱】

『ドイツ語第一部』および同『第二部』で勉強した基本的な文法事項に関する知識を用い、『ドイツ語第三部』では、ドイツの社会や文化に関するさまざまな話題を取り上げたテキストを読みます。その際、ドイツ語の基本文法がしっかりと頭に入っていることが、何よりも重要です。そのため、テキストには「文法の復習」コーナーが設けられています。また、必要に応じて『第一部』と『第二部』のテキストも読み返しながら、レポート課題に取り組んでください。

【テキストの読み方】

各課のドイツ語のテキストを、まずは辞書を引きながら、独力で日本語に翻訳してみてください。文法事項でわからない点については、「文法の復習」コーナーの解説を読んでみましょう。

【履修上の注意】

『ドイツ語第一部』および同『第二部』で勉強するレベルのドイツ語文法を理解していることが、履修の条件です。

【参考文献】

常木実『標準ドイツ語』郁文堂、1996年、2625円(税込)

(初級から中級までをカバーする参考書です)

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携 ドイツ文法総まとめ 改訂版』白水社、2003年、1680円(税込)

(主として中級から上級レベルを対象とするドイツ語文法一覧です)

【レポート作成上の注意点】

文法事項に関する問題は、『ドイツ語第三部』のテキストに書かれている説明をよく読んで上で、これに取り組んでください。また、翻訳問題では、出来上がった日本語の文を自分で読んでみて、意味がきちんと通じるかどうかを確認してからレポートを提出してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

ドイツ語第四部

(A 028-8802、A 8784)〔2単位〕

【講義要綱】

ドイツ語第四部はすでに初級、中級の段階をクリアした学生を対象にしたいちばんレベルの高い科目です。卒業論文作成のため資料蒐集のできるレベルを目標にしています。レポートにとりかかる前に初・中級の文法事項を総復習して、再提出を繰り返さないよう留意して下さい。ことに分詞構文や冠飾句、接続法を用いた文章などに慣れるように努めるとともに、文章全体の要点を把握する力をつけてください。

【履修上の注意】

配布テキストの文法事項は何度でも読み返し、完全に身につけて下さい。ドイツ文にしばしば使われる形容詞の名詞化、冠飾句などに慣れて下さい。

【参考文献】

- 岡田公夫ほか『基礎ドイツ語文法ハンドブック』三修社、2004年
中島悠爾ほか『初心者のためのトレーニングドイツ語』白水社、1994年
小栗浩『独文解釈の演習』郁文堂、1961年
岩崎英二郎『ドイツ語副詞辞典』白水社、1998年
中山豊『中級ドイツ文法』白水社、2007年
『独和大辞典』小学館

【レポート作成上の注意点】

シラバスにも書きましたが初級文法は完全にマスターしておいて下さい。これまでの添削の経験ではまだこれが充分できていない方があり、レポートの書き直しを繰り返すことは時間的にも労力の上からも不利であり、添削する側も残念です。関係代名詞や従属接続詞の及ぶ範囲、接続法の用法を無視したレポートが多いようです。丹念に辞書をひき、かつ常識を働かせることは訳文にあたって当然のことながら重要です。

【成績評価方法】

科目試験による。

フランス語第一部

(A 032-9002、A 032-9001、A 9091)〔2単位〕

【講義要綱】

教科書『フランス語第一部』は、フランス語を初めて学習する人のために、主に文の構造を分析する文法を中心に編まれ、フランス語で書かれた文章の内容理解とフランス語による表現力の向上を目指しています。教科書ではあらゆる角度からフランス語を解剖していますので、内容を十分理解し、練習問題で自分の習熟度を確認して行ってください。

【参考文献】

『ロワイヤル仏和中辞典 第二版』旺文社

『クラウン仏和辞典 第六版』三省堂

『ディコ仏和辞典』白水社

『プチ・ロワイヤル和仏辞典』旺文社

アニー・モヌリー＝ゴアラン『謎が解けるフランス語文法』第三書房、2000年

久松健一『ケータイ〈万能〉フランス語文法』駿河台出版社、2001年

新倉俊一ほか『フランス語ハンドブック』白水社、1996年

このほかにも多数の辞書・入門書・参考書が市販されています。書店で手にとって見て、自分の目的にあったものを購入するとよいでしょう。

【レポート作成上の注意点】

第1回 発音編～Leçon 10

第1回レポートは教科書『フランス語第一部』のLeçon 10までを範囲とします。以下の作業を行った上で、レポートに取りかかってください。

1. 教科書に従って、文法項目を理解してください。不明な点・疑問は辞書、参考書を使って解決するよう努めてください。解決できないときは、質問票を有効に活用してください。
2. 教科書の課題 version (仏文和訳)、exercices (練習問題)、thème (和文仏訳) を解答し、巻末の解答例で検証してください。間違えたものについては、再度、挑戦して確実に理解するようにしてください。
3. 教科書が確実に理解できたら、レポートを作成してください。

第2回 Leçon 11～Leçon 15

レポート作成上の注意点は第1回と同じですが、知識を確実にするために、第1回が終了してから第2回に取りかかってください。

【成績評価方法】

科目試験による。試験問題は教科書の例文等を中心としたものです。

フランス語第二部

(A 036-9501)〔2単位〕

【講義要綱】

フランス語第二部の教科書は、第一部で学んだ文法の知識を実際の文章の中で確認し、また、学習者自身でも活用してフランス語で表現できるようにする事に目標が置かれています。

教科書の第1章は、フランス語の文法が日常生活の表現ではどのように活用されているかを見、それに慣れる為に、多くの会話文を読む事になります。一方、第2章では、フランス語の文章を正確に読み抜く為に必須の文法事項の習得と、それらの知識を基にした読解が中心になります。この教科書で学ぶことは、フランス語第一部の教科書と併せて、今後、フランス語第三部、第四部での基礎になりますからしっかり勉強しましょう。

【履修上の注意】

「フランス語第一部」を履修し終えていること。またはそれに相応するフランス語力を有していることが、履修の条件です。

【参考文献】

新倉俊一他著『フランス語ハンドブック』白水社、1996年

朝倉季雄著、木下光一校閲『新フランス文法事典』白水社、2002年

【レポート作成上の注意点】

フランス語第一部の教科書を参照しつつ、フランス語第二部の教科書にまんべんなく目を通すことが大切です。こうする事が、レポートで合格点を得る為の近道です。急がば回れ、と云う事です。

【成績評価方法】

科目試験による。

フランス語第三部

(A 057-0901)〔2単位〕

【講義要綱】

本科目は講義科目ではないのでいわゆるシラバスはありません。学習の目的についてだけ述べておきます。

第一部と第二部で習得した文法知識を基に、生きたフランス語の読解力を高めるステップです。断片的な文法知識を総合的に駆使し、読解力向上の訓練をする素材としてレポート課題を設定してあります。難しいと思われるかもしれませんが、ここでの訓練は科目試験での得点に直結します。科目試験合否の目安は、どれだけ課題レポートで頑張ったかにかかっているとでもいいでしょう。フランス語に限らずどの言語でもそうですが、辞書を丹念に引くことは当然ですが、書かれている内容についての知識や旺盛な想像力がないと理解できないこともあるので、一般常識の獲得を始めとして、日頃から全方位的な知性を磨いておくことも重要です。

【テキストの読み方】

常時第一部と第二部のテキストを手元に置き、随時参照するようにしてください。第三部

テキストは日常、単独で行う訓練の素材として活用してください。

【履修上の注意】

とにかく機会あるごとに基礎文法（第一部）を徹底的に復習すること。これで実力は倍増します。そして、辞書を丹念に引くこと。日本語の表現力を磨くこと。

【参考文献】

外国語読解力向上の決め手は、良い辞書との出会いです。次の辞書をお薦めしておきます。小学館『小学館ロベール仏和大辞典』、三省堂『クラウン仏和辞典』、白水社『ディコ仏和辞典』、等々。なお、最近は電子辞書が流行していますが、動詞の活用を確かめるためにも、ある語彙の「全体を見渡す」ためにも、視覚的に記憶するためにも、上記辞書も紙媒体版の方が有利と思われます。最近、電子辞書のスクロール不足による出鱈目なレポートが多いので注意。

【レポート作成上の注意点】

まずは辞書を徹底的に引くこと。構文を正確に把握すること（特に主語と述語動詞をはっきりさせること）。いろいろな代名詞（人称代名詞・関係代名詞・指示代名詞・中性代名詞）が何を受けているかをはっきりさせること。動詞の時制に注意すること。

訳文が出来上がっても自分で読み返してみて、日本語として意味が通らないうちは、提出してはなりません。日本語としてチンプンカンプンなうちは、正しく訳せていないと思ってください。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・フランス語第四部 (A 061-1401) [2単位]

【講義要綱】

フランス語第四部は最も上級のレベルとなり、フランス語の総合的な運用能力習得を目指します。第四部の目標は3つです。はじめにフランス語で書かれた文書を正確に理解すること。次にフランス語の問いに的確に答えること。最後にフランス語で様々なことを伝えることです。具体的には課題文に対する質問への答えと日本文の仏訳をレポートとして期間中、2回提出してもらいます。フランス語を正確に、そして的確に運用するには、動詞などの個々の品詞をどのように変化させるのか（形態論）、主語と動詞の関係など文の構造をどうすれば良いか（統辞法）また自分の伝えたい内容にふさわしい語はどれか（語彙）などという点を総合的に考察する必要があります。第四部のレポートでそのコツをつかんで下さい。

【履修上の注意】

原則的に『フランス語第三部』まで履修済みであること、『フランス語第四部』のテキストを十分理解していること。今まで勉強した文法事項を何度も読み返し完全に習得して下さい。さらに、言語の背景となっているフランス文化に関心を持つことが大切です。フランスの新聞、雑誌、小説等を積極的に読み、語彙、表現を学びながら、幅広く豊かな知識（歴史・現代社会・文化・文学・時事問題等）を身につけましょう。レポート作成、科目試験に役立つと思います。

【参考文献】

- 彌永康夫『時事フランス語 読解と作文のテクニック』大修館書店、2011年
 伊吹武彦編『フランス語解釈法』白水社、2006年
 嶋崎正樹『時事フランス語』東洋書店、2010年
 原田早苗・水林章・萩原芳子・田島宏『コレクション・フランス語〈7〉書く』白水社、2002年
 東京都立大学フランス文学研究室編『フランスを知る—新フランス学入門—』法政大学出版局、2003年
 鳥居正文・金子美都子・田島宏『コレクション・フランス語〈8〉語彙』（CD付・改訂版）白水社、2007年
 三浦信孝・西山教行編著『現代フランス社会を知るための62章』（エリア・スタディーズ84）明石書店、2010年

【レポート作成上の注意点】

これまでフランス語で自分の考えを表現する機会は少なかったと思います。レポートを作成しながら、自分の書いた文章を何度も読み返し、出来るだけ自然なフランス語で表現してみましょう。

【成績評価方法】

科目試験による。

改訂・保健衛生

(A 053-0703) [2 単位]

【講義要綱】

人生の基本は健康です。人生80年を健康に、有意義に過ごすためには、最新の医学の常識を学び、いろいろな病気を予防していくことが肝要です。また、親となり、あるいは教育者となった場合には、将来を担う子どもたちに正しい知識を教える必要があります。あらゆる面で情報の多い現代では、医学情報に関しても、エビデンスに基づかないあやしい“治療”“薬もどき”もたくさんあります。保健衛生のレポートを通じ、エビデンスに基づいた正しい知

識を身につけ、それを実践できるようになっていただければ幸いです。

【テキストの読み方】

項目ごとに精読し、索引などを使い、関連項目も学習する。疑問点に関しては、教科書的な本と、最新の文献を調べる。

【関連科目】

「体育理論」

【参考文献】

『きょうの健康』NHK 出版

【レポート作成上の注意点】

- (1) 2000字以内とは、課題や参考文献の記載を除いた本文がスペースを含んで1800字～2000字で完成させるということです。スペースのあけ方は常識的に行ってください。ワープロの場合、本文の字数を文末に必ず明記してください。
- (2) 参考文献は、各課題について3編～5編で、出版年は2004年以降のものとし、必ず各課題の本文の後に記載してください。テキストは精読していることが前提ですので参考文献に数える必要はありません。エビデンスに基づいた信頼できるものを選び、少なくとも1編以上は成書を用い、インターネット利用の場合でも成書または学術誌がPDF化されたものを優先し、出所を明らかにしてください。
- (3) 『理科系の作文技術』（木下是雄著、中公新書）などを参考にレポートを作成してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

体育理論

(A 052-0601) [2単位]

【講義要綱】

体育学は、人間の身体活動を対象とした応用科学であり、その範疇は広く人文・社会・自然科学全てに及びます。本科目は、人間の行う身体活動の意味を幅広く理解することを目的とするものです。健康で豊かな日常生活のための身体活動について、その現代的意義を考え、また運動として実践するための基礎的知識を得る、さらにスポーツ・運動が人間の社会にどのように根付いてきたか、その文化的背景などについての理解を深めていきます。

レポート課題は3題の中から1題の選択としますが、試験においては全範囲にわたって総合的な理解を求めます。

【テキストの読み方】

各章の最後にあげた参考文献を補助的に用いて、テキスト本文の理解を深めてください。

【参考文献】

玉木正之『スポーツとは何か』講談社現代新書、1999年
安部孝・琉子友男編『これからの健康とスポーツの科学 第三版』講談社、2010年
宮下充正『トレーニングの科学的基礎（改訂版）』ブックハウス HD、2007年
杉晴夫『筋肉はふしぎ』講談社ブルーバックス、2003年
勝田茂『入門運動生理学 第3版』杏林書院、2007年

【レポート作成上の注意点】

3000字～4000字を目安とし、参考にした文献を明記してください。引用した場合、必ず文中に注・番号を入れ、文末に文献名・引用頁を明示して対応させてください。自身の主張と文献からの引用を区別して論述を展開するように心掛けてください。「塾生ガイド」の中の「レポート作成上の注意」を確認してください。特に「参考文献の使用」を熟読願います。

【成績評価方法】

科目試験による。